

睡蓮鉢とスイカ

玉川 和隆 (城東区)



我が家は街中で喧騒の中に存在する。近くには

国道1号線も通っている。こんな中で自然を求めて3階に2〜3本の木を配し、睡蓮鉢を置いた2〜3坪の庭を造った。さらに屋上には30坪の土を敷いて、3〜4坪の「畑」をこしらえて野菜を作るのである。

夏にはスイカやトマトなどを作る。スイカも30年も作っていると、3本の苗を植えて5〜8坪のもの14個、全重量80kgもの収穫を得ることがある。しかし、時には4〜5本のトマトの雨後にできる割れ目に、二三十匹の黄金虫(ブイブイ)に見舞われることがある。

天の恵みと公書や虫害、自然とのせめぎあいを感じて生きている。また、自然の大切さをおもんばかっている。

昨年80歳となり、病気に入院することもあって、スイカ作りは来年からやめようと思っていた。少し離れたところに住む小さな孫に毎年届けているのであるが、つい先日「おじいちゃんのスイカは甘くて大きくて百点や」と言った言葉思い出して、来年も再来年も作り続けられ、孫のほめ言葉に元気をもらっている。

会員投稿



鳩山首相を8カ月で政権の座から降ろしたのは、普天間基地の問題だった。米軍基地の国外移転を考えたのは良いが、残念ながら深い理念があったのではないから米政府の堅い壁には歯がたたず、迷走の末、「海兵隊

「抑止力」などと戯言を言いながら振り出しに戻ってしまった。環境がキーワードになっている時勢に新たに海を埋め立て、軍事基地を造るなど時代錯誤も甚だしい。海兵隊の一施設である飛行場の代替地の問題が総理の首がかかるほど重要なことなのか。普

安保とは「何か」ということではないか。宜野湾市に普天間基地があるのは、先の大戦末期、当市を占領した米軍が一方的に住民から強奪

した土地に構築したのだ。にもかかわらず、返すから新しい基地を造れ、移転費用も負担してくれとは、よく言えども講和条約の発効と同時に

に大規模な軍隊を派遣し、止むことなくどこかで暴力を振っているのは米軍基地の撤去や縮小を求める声は世界的に起こっている。フィリピンに

算までつけて基地を提供する唯一の国だ。もう戦後ではないと言いつつ、対米従属を外交の最高規範とするのでなく、その縛りを解き、独自の外交をもっと真の独立国になるにはどうすべきかを考えることが、

誰かが失いたくないものだ。世界に誇る平和憲法を生かし、自主独立、国際協調を通して軍事基地のない平和な国・日本でありたいものである。

一本で渋谷に着く。富士の峰幽かに見えて上野谷中の花の梢云々と芭蕉の文に見えるが、今日は渋谷から三つ目、平蔵門で降りる。いまや桜の名所となった千鳥ヶ淵の人の波から離れ、戦没者墓苑に入る。何故か、静寂そのもの。別世界の感。北へ進めば「合祀」で揺れる靖国の、太鼓の音が聞こえてくる。そして、「雨の神宮外苑」が記憶の底から蘇る。

米軍基地

門奈 丈石 (平野区)

要なのだ。問われるのは、膨大な国費を投じてまで、なぜ米軍基地を維持しなければならぬのか。その基盤である日米

の。また、それを無理ごもつとも受け入れた政府も政府だ。民意無視も甚だしい。

我々が多くの米軍基地が存在するのは、日米

縮結された不平等な軍事同盟であり、政府は対等なものと言えないのだ。大戦が終わり65年が過ぎ、冷戦も過去のものに

に繋がらないか。軍事同盟の強化と武力の行使からは、真の平和は生まれぬ。暴力による反撃を生むだけで争いは際限なく広がる

平和は誰もが欲し、誰もが失いたくないものだ。世界に誇る平和憲法を生かし、自主独立、国際協調を通して軍事基地のない平和な国・日本でありたいものである。

残暑お見舞い申し上げます



東京暮らし

鷺見 和恒 (中央区)

身を立て道を行い、名を後世に揚げて以て父母を顧す教を胸に、仲らの人生の基盤が定まった。次は、年金暮らしの年寄り二人の、終の栖を定めねばならない。スー

施設の普及とも相まって、ハイレベルの生活が営まれている。クモの巣状の交通網の発達で、生活上の用件は容易に満たされ、大自然環境への移

で、まだまだアカン。一日、下町遊覧へと出掛けた。地下鉄を二回乗り換えるだけで、簡単に葛飾である。歴史に残る戦禍のあとも見せず、下

積草と共に江戸時代の彫刻美術を残し、寅さんの草団子屋も健在である。「野菊の墓」で有名な「矢切りの渡し」も程近い。帰りは京成と地下鉄

一本で渋谷に着く。富士の峰幽かに見えて上野谷中の花の梢云々と芭蕉の文に見えるが、今日は渋谷から三つ目、平蔵門で降りる。いまや桜の名所となった千鳥ヶ淵の人の波から離れ、戦没者墓苑に入る。何故か、静寂そのもの。別世界の感。北へ進めば「合祀」で揺れる靖国の、太鼓の音が聞こえてくる。そして、「雨の神宮外苑」が記憶の底から蘇る。